



【神戸】奥谷金網製作所（神戸市中央区、奥谷勝彦社長、078・351・2531）は、樹脂板にバリの発生を抑えて多数の穴をあける加工技術「樹脂パンチング」写真は加工例」を開発し

バリ抑え、多数の穴あけ 奥谷金網製作所が新技術

た。切削加工に比べ、加工時間が大幅に短縮できる。腐食により金属が使えない半導体の製造現場や化学プラントでの整流板向けなどに提案する。4月1日に受注を始め、初年度1000万円の売り上げを目指す。

樹脂パンチングは開ける穴の直径に合わせた金型を用意し、樹脂ごとに加工方法を工夫することでバリの発生を抑えた。

樹脂は一般的なポリプロピレン（PP）、ポリ塩化ビニール（PVC）など5種類に対応。それぞれの樹脂に1万回パンチした同社の試験では、バリの発生回数が各5回以下、発生率0・05%以下に抑えられたという。

加工できる大きさは最大1平方センチ、厚さは1ミリ〜5ミリ、厚さ3ミリ以下の最小直径1・5ミリの穴があけられる。

樹脂の多孔板は切削加工が多く1穴ごとの加工のため、時間がかかっているのが現状。一方で樹脂のパンチングはバリが出るため、仕上げ作業が必要だった。今後は加工精度の向上や特殊樹脂への対応を進める。